

第一高周波工業（東京都中央区）は、レーザーを利用した熱処理の事業化を進めている。

北九州工場（福岡県直方市）にレーザーの焼き入れ設備を導入し、高周波焼き入れが難しい製品への対応力を高めている。レーザーを熱源として利用することに着目して熱処理の幅を広げ、自動車業界などの開拓を目指す。

「レーザー熱処理を手がける事業者が北九州地区にはほとんどいない」。北九州工場への同設備の導入を進めた平山鋼太郎会長

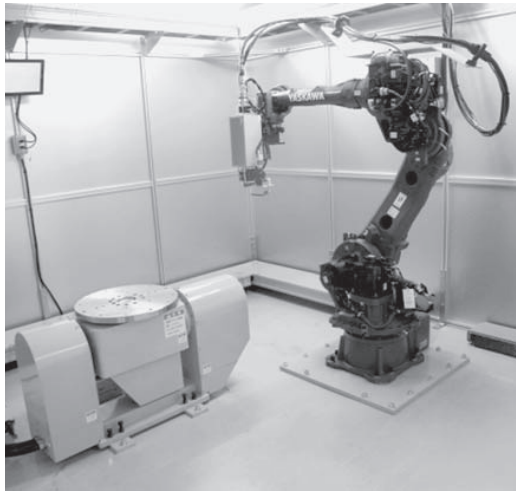


第一高周波工業

「レーザー熱処理は、ニーズの取り込みに期待を寄せる。同社が目をつけたのが高出力の半導体レーザーだ。製造現場ではレーザーを材料の切断や溶接に使うことが多く、性能が向上して

熱処理の幅広げ事業開拓

レーザー焼き入れ設備



いる半導体レーザーのや産業用ロボットを活用特徴を生かした焼き入れを美用化した。ドイツ製のレーザー発振器

深さが1ミリの以下に製品に対応する。

レーザによる焼き入れへの引き合いはすでに100件近く届いている。「顧客に説明すると、こんなこともできるのか、と驚く」

（平山会長）という。焼き入れによる歪みが極めて小さく、複雑な形状や奥まった箇所など、高周波では難しい熱処理のニーズを取り

▲北九州工場に導入したレーザー焼き入れ設備

るが、レーザーは製品と説明する。事業領域の表面を熱するため、「母材が熱を吸収」若手の育成にもつながりそうだ。

必要ない。第一高周波工業は70年近くにわたって高周波焼き入れを展開し、目視で温度の状況が分かるような技能者を多く抱えているが、レーザー熱処理のノウハウも着々と蓄積している。事業化に向けて平山会長は「若手の社員にも携わってもらおう」

（孝志勇輔）（おわり）

【事業所概要】▽所在地 福岡県直方市上頓野4711の49、0949・26
・08336▽主要生産品目 表面処理▽年間エネルギー使用量 非公表▽年間CO₂排出量 非公表